

「負の想念」を持たないこと

それが、深層意識のレベルが深い世界と繋がるための不可欠の条件であると述べられています。

逆に言えば、

我々が心の中に、

怒りや憎しみ、悲しみや嘆き、後悔や自責、不安や恐怖といった強い「負の想念」を持つと、

深層意識のレベルが深い世界と繋がることを妨げてしまい、我々の心の奥深くに眠る能力は発揮できないのです。

そのため、直観の閃きや未来の予感、コンステレーションによる暗示、シンクロニシティによる導き、そして、運気の引き寄せといったことは起こらないのです。

特に、辛い逆境に置かれたとき、我々の心には、

「これは、自分に定められた不幸な運命なのだろうか・・・」

「これは、自分の運気が悪くなっているからだろうか・・・」

「これは、自分の悪しき行いが招いた罰なのだろうか・・・」

といった強い「負の想念」が渦巻き、それが、

我々の中に眠る力と叡智の発揮を、甚だしく妨げてしまいます。

「負の想念」が消えていく究極の技法

では、どうすれば、我々は、

自分の心の中から「負の想念」を追い払い、

「正の想念」で満たすことができるのか。

それが、本書で語り続けた、究極の「こころの技法」です。

「すべては導かれている」という覚悟を定めること

それが、最も優れた究極の技法です。

では、なぜ、「すべては導かれている」という覚悟を定めると、心の中が「正の想念」で満たされるのか。

なぜなら、

「すべては導かれている」という思想は、

「すべてを肯定する」という思想だからです。

言葉を換えれば、

「すべては導かれている」という思想には、

そもそも、「良きこと」と「悪しきこと」という分離が無いのです。

なぜなら、「すべては導かれている」という思想は、

「悪しきこと」と思える出来事も、実は「良きこと」である

との思想だからです。

我々の人生は、大いなる何かに導かれている。

そして、その大いなる何かは、

我々に、素晴らしい人生を送らせようとしている。

それゆえ、我々の人生において起こる

不運な出来事や不幸な出来事と思えることは、

実は、我々に大切なことを教えてくれる出来事であり、

我々を成長させてくれる有り難い出来事である。

そう考える思想、それが、「すべては導かれている」の思想です。

このように、

「すべては導かれている」という思想は、

「すべてを肯定する」という思想であり、

「悪しきこと」と思える出来事も、実は「良きこと」である

との思想であるため、

そこには、そもそも、「負の想念」というものが無いのです。

しかし、我々は、通常意識の中では、

人生というものを、

「幸運と不運」 「幸福と不幸」

「安楽と苦勞」 「順調と困難」

「成功と失敗」 「勝利と敗北」

「達成と挫折」 「獲得と喪失」

「健康と病氣」 「安全と事故」

という形で、「良きこと」と「悪しきこと」という二つに分け、

自分の人生において「良きこと」のみが起こることを願い、

「悪しきこと」が起こらないようお願いします。

しかし、こうした「良きこと」と「悪しきこと」を分離し、対立的に捉える

「分離・対立の思想」を抱くかぎり、

我々の人生における、

怒りや憎しみ、悲しみや嘆き、後悔や自責、不安や恐怖は、

決して無くならないのです。